

自らの気づきから、考えて行動することに移せる生徒の育成

～日常生活にV S活動を取り入れて～

刈谷市立雁が音中学校 久保 智嗣

1 主題設定の理由

「先生、～してもいいですか」という声が私の教室ではよく聞こえた。「～してもいいですか?」という質問ができるのは、よく言えば、ルールを守って生活しようとしており、日常の中に「気づき」があるからだ。しかし、私の許可や指示がないと動くことができない生徒になっているとも考えられる。本学級では1学期に「気づくこと」に重点を置いて生活してきた。「〇〇さんが休みだから、給食当番1人足りなくない?」「〇〇係が大変そうだから手伝ってあげようよ」という気づく声が出てくるようになった。しかし、そこで「〇〇をしてくれるかな」と指示を出すのは、やはり私である。どうしても生徒が気づきに留まり、私の指示を待っているだけになっているように感じた。

生徒たちがこれから生きていく社会は、誰かの指示を待っているだけでは不十分である。日常の中で様々なことに気づき、さらには考えて、自ら行動することが求められるだろう。そんな社会に出て行く準備として、この学級の生徒たちに、自らの気づきを気づきだけで終わらせずに、考えること、さらには行動することに移せるようになってほしいと考え、本主題を設定した。

2 ワークショップのその後について

(1) V S活動について知る

夏休み明けの9月、学級通信で生徒に「V S活動」を伝えた。生徒の中にV S活動について知る者はおらず、興味をもって話を聞いてくれた。また、そのときに1学期は気づくことがよくできていたことや2学期はそこから考えること、行動することに移してほしいと伝えた。さらに、V S活動については、教室内であれば、私の許可を得なくても、正しいと思えば行ってよいと伝えた。

(2) アルミ缶回収参加率 100%達成に向けて

本校では、毎月0の日に美化リサイクル委員によるアルミ缶回収が行われている。アルミ缶を持ってきた人は昇降口に立っている美化リサイクル委員のチェックを受ける。その日に各学級のアルミ缶回収参加の割合が発表されるようになっている。

本学級では、1学期から100%を達成しようと、級長が呼びかけたり、美化リサイクル委員がポスターを作成したりしていた。初回こそ20%ほどの低い参加率であったが、第2回からは毎回のよう90%前後の数字を出していた。しかし、うっかり忘れてしまったり、チェックの時間に遅れてしまったりする人がいて、なかなか100%の達成はできずにいた。

2学期が始まり、最初の回収日である9月10日を前にして、生徒Aが「みんながアルミ缶を持ってくるようになるといいなと思って。そのために次がいつなのかが分かるようになるといいのかなと思ったから、これを作ってきました」と次回の回収日を知らせる掲示物を作ってきた【資料1】。

生徒Aは1学期から、どうすれば友達がアルミ缶を持ってきてくれるのかを考えていた。生徒Aの掲示物を学級の掲示板に貼ると、多くの人に興味をもって見るようになった。そこからアルミ缶回収参加率100%を達成するために何ができるかを、さらに考えるようになっていった。「1個でいいから準備する努力をしよう」「0の日は5分早く来るようにしたいね」と各々が工夫をするようになった。そして、12月に念願の100%を達成することができた。

生徒Aが学級のアルミ缶回収について本気で考えて、掲示物を作る行動を起こしたことで、本学級は全員参加となる100%を達成することができたと感じた。

(3) 元気な挨拶ができるように

2学期のはじめ、学年の挨拶の声がどこか元気がないように感じた。そこで、学年の教員で協力して行動を起こした【資料2】。私たちが元気に挨拶をすることで、生徒は元気に笑顔で挨拶をすることができるようになってきた。

何日か続けていると、本学級の生徒Bが「みんながもっと挨拶できるようになってほしいので、私も一緒に挨拶をしてもいいですか」と言って、次の日から加わった。すると、1人、また1人と一緒に立つ生徒が増えていき、最後には、教員が立っていたところも生徒が立つようになっていた。

生徒Bが挨拶について本気で考えて、自らが学年の前に立って挨拶を推進していこうとする行動を起こしたことで、同じように考えていた仲間が行動を起こし、本学年が元気な挨拶をすることができるようになっていったと感じた。

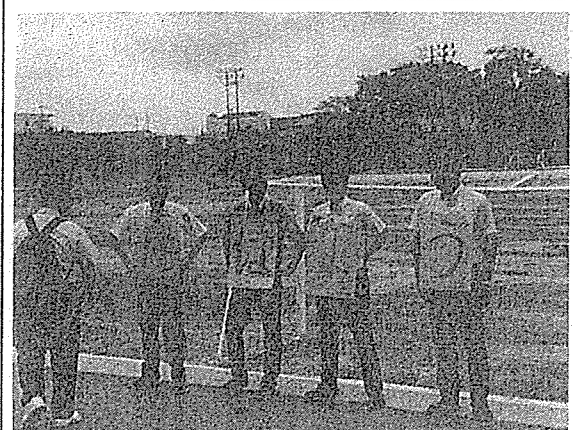
3 おわりに

生徒が自ら行動を起こすことで成功体験を味わえたことがよかった。この他にも、係の仕事が大変そうなところを手伝ったり、友達の荷物を持ってあげたりする姿が見られるようになり、今まで「～したらいいのかな」と迷っていた生徒も迷いなく行動に移すようになった。日常生活の中には、誰かが気づき、考え、行動せねばならない瞬間がいくつもある。そんなときに迷うことなく、自らの意思で行動に移していける人になっていてもらいたい。

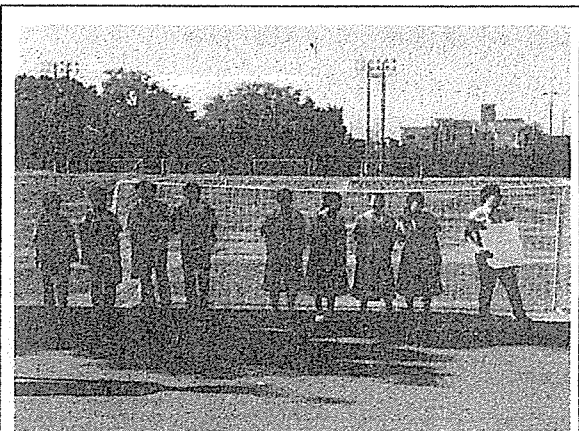


【資料1】

生徒Aの作った掲示物



【資料2】まずは教員から…



【資料3】生徒の行動で